

甲府市議会「政友クラブ」視察研修報告書

報告者 深沢 健吾

1. 日程

令和7年2月12日(水)～2月14日(金)

2. 視察先・内容

- | | |
|---------|--------------------------|
| ①徳島県徳島市 | 「徳島市公民連携プラットフォームについて」 |
| ②徳島県阿南市 | 「まず、やってみる」阿南市の公共施設マネジメント |
| ③香川県高松市 | 「高松型地域共生社会構築事業」 |
| ④香川県高松市 | 「スマートシティたかまつの推進」 |

3. 参加者 3 名

鈴木 篤 小澤 浩 深沢 健吾

[視察概要①]

- (1) 研修日程 2月12日(水)
- (2) 研修場所 徳島市役所
- (3) 研修内容 「徳島公民連携プラットフォームについて」
- (4) 対応者 徳島市企画政策部企画政策課長兼 SDGs 推進室長 小原 和浩
" 係長 湯浅 祐輔
徳島市議会事務局 局長 宮本 和幸

[SDGs 未来都市への選定]

令和４年５月２０日、「ＳＤＧｓでまちの未来を創ろう！ 持続可能なわくわくするまち・とくしまの実現」のスローガンのもと、徳島市の顔であるひょうたん島エリアにおいて、「活力・包摂・循環」をテーマに唯一無二の体験コンテンツ等を提供し、多種多様な人の社会参加の促進、環境にやさしい循環型ハード整備など経済・社会・環境三側面の取組を進め、同エリアをＳＤＧｓ実現のモデル地区とし、持続的に成長する都市の実現を目指す。

- (1) 経済面の取り組み
- (2) 社会面の取り組み
- (3) 環境面の取り組み
- (4) 自分たちのまちを、自分たちでつくる！ みんなでSDGsを実現する仕組みづくり
- (5) かわまちづくりの推進

[徳島市SDGs未来都市実現協議会]

(1) みらい部

- ・子どもに関する SDGs の普及啓発に関すること
- ・子どもの声を反映する仕組みづくりに関すること
- ・その他子ども部会の運営に関すること

(2) ジェンダー部会

- ・女性問題に関する SDGs の普及啓発に関すること
- ・女性の声を反映する仕組みづくりに関すること
- ・その他女性部会に関すること

(3) パートナーシップ部会

- ・官民連携の意義や必要性の普及啓発に関すること
- ・官民連携推進に向けた仕組みづくりに関すること
- ・その他官民連携部会の運営に関すること



[徳島市役所での視察の様子]

[先駆的・実験的な取組]

①子どもの声を大切にする未来志向の取組

市立小中学校で・高校で SDGs のゴール達成に向けた取組を実施中

- ・水の使用量をグラフ化・節水動画の作成
- ・廃材を使った作品づくり
- ・自作 SDGs カルタを地域へ寄贈 など

➡ 未来を担う子どもたちの声を反映し、活力あるまちへ！

②女性の視点や発想を SDGs に生かす取組

これまでのジェンダーギャップの解消、女性活躍の推進に係る取組

- ・全国2例目となる、多様な家族を応援する「ファミリーシップ制度」を導入
- ・企業と連携した、女性・若手経営者・起業家の育成支援、「フェムテック」の実証実験 など

➡ 本市の先駆的な取組を加速し、ダイバーシティ社会の実現へ！

③持続可能なひょうたん島周辺遊船事業の検討

将来にわたり持続可能な循環型運用形態へ

- ・脱炭素の実装
- ・デジタル化の実装

➡ 脱炭素社会に向けて、持続可能な新しい「水都とくしま」へ！



[Co×Lab Tokushima] (徳島市 SDGs 公民連携プラットフォーム)

①水平リサイクルに向けたペットボトル専用回収機の設置

ペットボトルを再資源化して、再びペットボトルとして使用する水平リサイクルの割合はまだ低い状況にある中、市内のセブン・イレブンの店舗（22 店舗）にペットボトル専用回収機を設置し、水平リサイクルを推進する

- ・年間 55.8 万本
- ・連携パートナー 株式会社セブン・イレブン・ジャパン
有限会社ハイプラ（ペットボトルキャップの改修・寄付）

【視察概要②】

1. 徳島県阿南市

- (1) 研修日程 2月13日(木)
- (2) 研修場所 阿南市役所
- (3) 研修内容 「まず、やってみる」阿南市の公共施設マネジメント
- (4) 対応者 阿南市副市長 西田 修
阿南市議会副議長 佐々木 志満子
阿南市建設部公共建築課
公共施設マネジメント室公共施設マネジメント係
係長 中西 康

[阿南市公共施設等総合管理計画]

計画からわかること

- ・ 少子化による働き手減による歳入減
- ・ 高齢化により支える人への歳出増
- ・ 減らすことのできないインフラ（道路など）
- ・ 建物に使えるお金が減っていく
- ・ 厳しさを増す将来の財政予算
- ・ どんどん老朽化していく公共施設
- ・ 増える公共施設の事故事例
- ・ 公共施設は自治体経営にとってお荷物？
 - ➡ ・ 修理代がかかる
 - ・ 建て替え費用が高額
 - ・ 維持管理が大変
 - ・ 人口減少により利用者も減少
 - ・ 全国平均ぐらいに縮減？（H24調査 3.22㎡）
 - ➡ ・ 公共施設を壊そう
 - ・ 使っていないのを壊そう
 - ・ いらない施設はどんどん壊そう
 - ➡ 本当にこれが阿南市にとって最適解なのか？

公共施設マネジメントって無理ゲー？

- ・ 施設の廃止ができない？
- ・ 更新すべき施設が同時期に大量発生
- ・ 対応する職員の不足
- ・ 多様化する市民要望
- ・ 用意できない予算
- ・ 集約・複合化は経験のない取組
- ・ 新しいことやチャレンジを許さない空気感

[トライアル・サウンディングについて]

①サウンディングとは

公募の前段階で行政が考えている条件を提示し民間事業者にヒアリングを行いながら、適切な条件のすり合わせを行うこと。公募の前段階である程度、民間の意図が把握でき、庁内のコンセンサスも取っておけるため、契約段階でのトラブルのリスクを低減で

きる。2010 年頃に横浜市が導入し、今では手法として一般化してきた。

・サウンディング型市場調査 = 行政による民間事業者との対話型市場調査

②令和 3 年度 サウンディング + ツアー（視察、見学、旅行など）

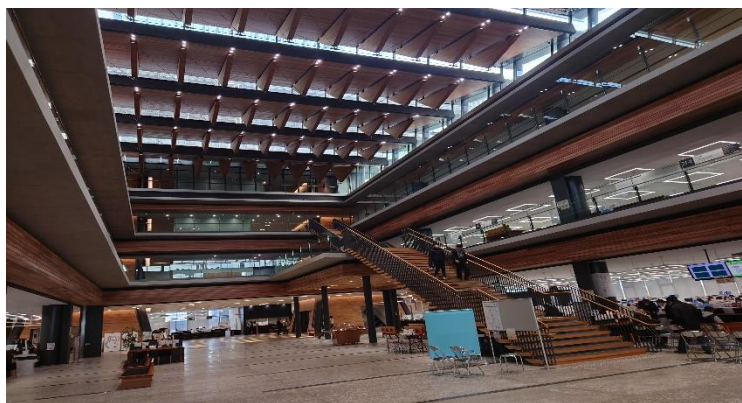
令和 4 年度 トライアル（試す、実験するなど） + サウンディング

③トライアル・サウンディング事業の実績

64 の事業が実施され、231 の事業者らが参加した

（飲食業 71・物品販売等 131・教室、ワークショップ 7・リラクゼーション 4・
イベント企画 8・その他 10）

➡ 幅広い事業者・団体が、多種多様な価値観を表現



〔市庁舎のフロアを使って昼夜問わず様々な事業が展開されている〕

〔阿南市民間提案制度の創設〕

①提案者は事業者主導

阿南市民間提案制度募集要項をもとに自由に企画提案できる

➡ 公共発注ではない

②アイデアを行政の仕組みにフィットさせる

アイデアを公共空間で実現させるために、事務局や担当課が、行政における進捗状況や、法律、制度等に照らし合わせ、具体的な事前相談対応を行う

➡ 事業者との対話

③皆様のアイデアを保護します（随意契約の保障）

皆様のアイデアを、知的財産として保護するため、事業化される場合は、随意契約を締結します

➡ 提案者の保護

④令和5年度における募集テーマ

- ・ 公共施設の有効活用に関する提案
- ・ カーボンニュートラルに資する提案
- ・ 広告及びネーミングライツに関する提案

[民間提案制度の目的]

1. 民間事業者のアイデアによる公共施設の有効活用
行政では発揮しきれないポテンシャルを事業者主導で発揮
2. 民間提案制度の価値
原則、市の財政負担を伴わない（民間の活力等で実施）
3. 公共施設の有効活用

使われてこそ生きる 負債 → まちの財産

[公共施設の有効活用例]

- ① 旧図書館 （埼玉県さいたま市）
- ② 旧市民プール （岡山県津山市）
- ③ 旧保育園 （鳥取県智頭まち）



[阿南市役所での視察の様子]

[スモールコンセッションプラットフォームの設立]

- 今後、人口減少等により、廃校等の空き施設や地方公共団体が所有する古民家等の空き家の増加が見込まれる中、それらを有効活用して、交流人口や雇用を拡大し、地域経済の活性化を推進することが重要
- その際、民間の創意工夫を最大限に活かした小規模な PPP・PFI の手法を活用することが有効的

- ・身近な遊休不動産の活用
- ・官民対話を通じたビジネス環境の創出
- ・エリアの価値向上

【視察概要③】

1. 香川県高松市

- (1) 研修日程 2月13日(木)
- (2) 研修場所 香川県高松市役所
- (3) 研修内容 「高松型地域共生社会構築事業 実施状況」
- (4) 対応者 高松市議会議長 大見 昌弘
高松市健康福祉局 地域共生社会推進課
主幹 課長補佐事務取締 中川 礼

〔事業概要について〕

子ども・高齢者・障がい者などのすべての人々が地域、くらし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」を実現するため、「まるごと福地相談員」の配置や「つながる福祉相談窓口」の設置のほか、国の「重層的支援体制整備事業」の枠組みを活用して、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施している。

〔事業実施の理念・考え方〕

ほっとけん市民みんなでつくる

ほっとかんまち 高松。

- ①地域みんなで助け合う仕組みづくり
- ②話しやすく分かりやすい身近な相談支援
- ③暮らしのどんな困り事にも対応できる仕組みづくり

〔利用実績について〕

R5 年度実績

- ・参加支援事業 相談対応人数 20 人
- ・つながる福祉支援相談窓口 相談件数 221 人
- ・まるごと福祉相談員 アウトリーチ件数 14,039 件

- ・ まるごと福祉相談員 相談対応件数 689 人
- ・ 重層の支援会議・支援会議 開催数 34 回



〔高松市役所での視察の様子 1日目〕

〔令和5年度事業の取組状況〕

①住民主体の支え合いサービス

- ・ 介護保険事業（総合事業）
- ・ 地域福祉ネットワーク会議の立ち上げ
- ・ 住民主体の支え合いサービス実施
- ・ 活動の推進・担い手の育成

②共助の基盤づくり事業

交流型・イベント型・会食型・訪問型などの複合型（33箇所）

③参加支援事業

- ・ 既存の各制度における社会参加を支援では対応できない個別ニーズに対応
- ・ 地域の社会資源などを活用し、社会とのつながりづくりに向けた支援を行う

〔問題点や今後の課題について〕

令和5年5月に実施した市民向けアンケートの中で、地域共生社会を知っていますかという質問に、名前も内容も知らないと回答した方が64%、同様にまるごと福祉相談員は81.1%、つながる福祉相談窓口は82.2%、との結果が出ており、周知啓発等がまだまだ重要であると考えている。

市職員はもとより、市民・事業者にも広く事業を認識してもらうために、PR映像やデジタルサイネージなど各種媒体を利用して周知啓発に努めている。

〔新たに考えている取組など〕

令和7年度から参加支援事業に従事する心理等の専門家の配置人数を2名から3名に増員する予定。同行支援や受け入れ先の社会資源の開発を積極的に行うなど、ひきこもりの方や孤立している方と社会とのつながりづくりに向けた支援をより充実さ

せていく方針である。

【視察概要④】

1. 香川県高松市

- (1) 研修日程 2月14日(金)
- (2) 研修場所 香川県高松市役所
- (3) 研修内容 「スマートシティたかまつの推進」
- (4) 対応者 高松市総務局 デジタル推進部デジタル戦略家課
課長補佐 岡 宗典

[スマートシティたかまつ プロジェクトの推進]

市民全員がデジタル技術を活用でき、社会全体のDXを進めることで、誰もが、どこからでも利便性を享受できる「スマートシティたかまつ」の実現

- ・持続可能で魅力的なまちづくり
- ・市民ニーズに応じた行政サービスの効率的な提供
- ・多様な主体の出会いと協働を促進する仕組みづくり
- ・誰もがデジタル社会の恩恵を享受できる環境整備

[高松市 デジタル改革宣言]

ここに、高松市はデジタル改革を宣言します。

で きることから始めよう。

じ っくりみんなで話そう。

た しかデータを見よう。

ル ールから変えていこう。

市民の皆様といっしょに、真のデジタル社会の構築に全力を挙げます。

[各分野における取組例]

①防災分野

- ・日本の中では災害の発生が比較的少なく、市職員が災害対応の経験を積んでいない
- ・悪条件が重なると、都市機能と海との近さが仇となり、広範囲に被害が発生する危

陰性

令和 2 年 3 月に瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の綾川町、並びに観音寺市とともに、本市の構築した I O T 共通プラットフォームを共同利用する協定を締結

- ➡ 令和 2 年度より、負担金方式で、高松市の導入したデータ連携基盤を近隣 2 市町で共同利用

まずは、防災分野で活用し、高松市の他、綾川町、観音寺市の水位・潮位データを収集するほか、気象や道路の通行実績情報など、防災・減災に必要なデータも新たに収集し、本市の I O T プラットフォーム上に一元的に表示

- ➡ この取組が評価され、令和 3 年度「情報通信月間」総務大臣表彰を授賞！

②観光分野

- ・ 中心市街地が平坦であり、自転車を利用しやすい条件が揃っている
- ・ 市が運営するレンタサイクル事業を活用し、大きなコストをかけずに観光客のデータを収集

レンタサイクルの利用動態から特に外国人観光客の動態を分析し、施策展開に活用

(1) GPS ロガーによるデータの蓄積

- ・ 起終点の把握
- ・ 利用経路・行動範囲の把握
- ・ 移動時刻・滞在時間の把握

(2) 利用者登録

- ・ 利用者属性・目的等の把握

(3) データの可視化

- ・ 出発地・目的地・移動経路の可視化
- ・ 滞在時間の可視化

- ➡ ・ レンタサイクルを使用する外国人観光客の訪問先を把握し、多言語対応
・ “ ” 観光客の訪問先を把握し、新たな観光資源を発掘

(4) 市直営レンタサイクルの自転車 1,250 台のうち、50 台に GPS ロガーを取付

- ➡ 平成 30 年 4 月～令和 4 年 3 月で、合計 6,475 件のログ取得
(令和 4 年度からシステム入替)

- ➡ 全国展開のサービス(アプリ)の導入で観光客の利便性向上

③福祉分野における取組

- ・高齢者見守りへの ICT の活用として、香川高専、㈱ミトラとの連携協定に基づいて、呼吸や心拍等のバイタル情報が把握できるウェアラブル I O T 機能を開発し、I C T を活用した地域包括ケアシステムの構築の推進を図る
- ・「地域一体型バーチャルケアによる介護予防推進事業」として、平成 30 年度総務省「I O T サービス創出支援事業」に採択



[スマートシティたかまつ推進協議会の設立]

平成 29 年 10 月に、産学官民の多様な主体との連携を通じて、I O T 共通プラットフォームを活用した、官民データの収集・分析による地域課題の解決を目指し、スマートシティたかまつ推進協議会（会長：高松市長）を設立
 ※会員数 157 者（R7 / 2 現在）



[高松市役所での視察の様子 2日目]

[ワーキンググループにおける検討例]

①スマート農業WG

農業分野におけるLPWAを活用したシステムの有用性の検証

- ・SONY LPWAの基地局が複数存在し、市内の農地は比較的平野が多く、安定した通信環境が整備されている
- ・施設における品目としては、本市でも生産量及び面積が拡大傾向にある「アスパラガス」を重点的に検証を実施
- ・本市は、宅地と農地が混在化しており、一定規模以上の作付規模をもつ水稻栽培の農業者は、栽培拠点が点在しているため、遠隔的な監視に需要がある

②交通事故抑制を目指したデータ利活用

- ・ドライブレコーダーの動画データ（民間企業提供）を分析して特定する危険要因データと、交通事故データ（香川県警提供）や公共施設データ等をオープンデータ（高松市提供）を一元的に表示した危険要因マップを作成し、自治体・事業者の研修等において活用
- ・運転中のドライバーに対して、交通事故危険度が高いと推定される区域及び周囲環境（オープンデータ）の情報をスマートフォン専用アプリ（音声のみ）で提供し注意喚起